

**令和4年度 第2回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会
「ゆっくりズムのまち桐生」ワーキンググループ 議事録**

1. 日時

令和4年8月30日（火）18：30～20：30

2. 場所

桐生市勤労福祉会館3階 大会議室

3. 出席者

（1）委員（14人）

会 長：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長〕
委 員：西菌 大実〔群馬大学共同教育学部 教授〕
藤生 五郎〔桐生商工会議所 副会頭〕
茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕
小島 由美〔未来創生塾 副塾長〕
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長〕
（欠席者）深澤 光秋〔新田みどり農業協同組合 総務部長〕
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕

（2）関係団体（識者）（3人）

織都桐生案内人の会	会長	芳山 和弓
社会福祉法人 広済会	クローバー	飯島 貴輝
桐生市みどりと花の会	幹事長	福田 勝巳

（3）事務局（3人）

高橋環境課長
金子環境都市推進係長
高橋主任

4. 議題

- （1）市花であるサルビアなどを中心に市内の花や緑を楽しむことができるまちづくりについて
- （2）市内の歴史的文化的資源・川や水路などを歩いて楽しむことができるまちづくりについて

5. 議事要旨等

○議題1

市花であるサルビアなどを中心に市内の花や緑を楽しむことができるまちづくりについて

【会 長】

『ゆっくりズムのまち桐生』の宣言を2020年11月に行い、その実現に向けた取組として2021年6月に環境先進都市将来構想推進協議会にワーキンググループを設置した。また、前回のワーキンググループで協議を行い、市の花であるサルビアなど花や緑を楽しむことができるまちづくりと市内の歴史的文化的資源・川や水路などを歩いて楽しむことができるまちづくりの主に2つのテーマが出た。今年度はこの2つのテーマを具体的に進めていきたいと考えている。しかし、ワーキンググループのメンバーだけではノウハウがないため、本日は地域でこれらの取組を実際に行っている専門の方にお越しいただいた。意見交換を行い、課題や問題点を確認していきたい。(順次自己紹介)

【社会福祉法人 広済会クローバー 飯島様】(自己紹介)

就労継続支援B型の事業を行っており、地域で障害のある方の仕事の支援をしている。今現在27名通所している。8割の方が知的障がい者であり、年齢は24才から70才までの方が利用している。仕事は軽作業が主となる。

カインズホーム、上州菓匠青柳の軽作業、自主生産品のかぼちゃ饅頭・プリン製造販売を行っている。

園芸作業では、花苗を育て、地域に植え込みを行っており、新里支所・厚生病院・吾妻公園へ年2回程程度苗を植えている。花の販売も行っている。

【福田造園 福田様】(自己紹介)

桐生市みどりと花の会の幹事長をしている。みどりと花の会は、以前は区の方に協力いただいていた。最近は独立団体として活動している。緑の育成・緑化推進としてみどりと花のまちにしようとする活動を行っている。

【織都桐生案内人の会 芳山様】(自己紹介)

現在会員は45人所属している。赤い帽子・赤い旗が案内人の目印となる。案内は、9割が重伝建地区であり、それ以外では、広沢の彦部屋敷の案内も行っている。

自主企画としては、様々なテーマをもとに企画をしている。清水義男先生の『ふるさと桐生の民話』より桐生の7不思議をテーマにまち歩きを行っている。

中央公園の横には古墳があり、普段車で通り過ぎる所に隠れたパワースポットがある。基本歩いてまわる企画をしている。長距離だと年寄りには難しいので、距離数を調整している。桐生は昔、水の都として水路が沢山あった。10月には水路(新宿付近)を巡る企画を検討している。

図書館の前にある普通の椅子だと思っていたものがアートであった。調べたら市内にはパブリックアートが点在していた。JR桐生駅や郵便局にもある。11月に『アートに出会おう』も実施予定である。歩いて巡るのが会のモットーである。協力できるプランニン

グがあれば会として協力したい。

(※関係団体様の以降の発言は『識者』と表記しています。)

【会 長】

桐生には地域資源がいっぱいあり、自然もある。生かしながらゆっくりズムのまちづくりを進めていきたい。ゆっくりズムの周知として、市民の人に解ってもらえるようにしていきたい。

各団体活動の予算はどのように工面しているのか。活動が浸透しなくなったことへの対処法、どのようにすれば多くの住民をまきこめるのかなどご意見を伺いたい。

【識 者】

以前は、地域の緑化として市内18区の各区の花壇に花を植えていた。苗を育て植えており、サルビアも植えていた。以前は、みどりと花の会が主催で、市民の方から区費の一部補助をもらっていたが、徐々に無くなっていった。その後、有志から補助をもらい、苗を植える活動を行ったが、管理をしてくれる人が高齢化してしまい維持管理が難しい状況となった。そのため、PTAにお願いをした経緯がある。作業においては、一時期人は集まるが、常に人を集めることは難しい状況であった。現在は、地域美化の活動・緑化推進の一環とし、みどりと花の会として吾妻公園で育てたものの内、余ったものを配っている。ただし、配ることはできるが、管理まではできない。重伝建地区や個人の庭先でやるといった時、人がいないとやはり管理が難しいのが現状である。

【会 長】

高齢化により維持管理が課題となると思う。

桐生市はまちが整備されているが花壇があるのか。

【識 者】

花壇は区の一部で庭先の中でやってもらっている。

【識 者】

新里では、ふれあい花いっぱい運動を桐生市と社協が主催で行っており、協賛としてクローバー、老人クラブ連合会、新里花卉研究会が参加している。ぐんま昆虫の森南側の道沿いで約1キロメートルで年2回6月にサルビア、11月にキンセンカそれぞれ5800苗を植えている。クローバーは苗の管理、植える場所のマルチ設置など手伝っている。参加者は、回覧板で周知し募集をかけている。地域で約200名が参加している。参加者は家族連れが多い。今年が第43回になるので、年2回開催していることから約20年の歴史がある。参加者へ社協から飲み物の配布がある。

【会 長】

社協が参加していることもあり、うまく回せる仕組みが地域でできている。

【委 員】

桐生市の一斉清掃の時期がタイミング的にも良く、参加者も集めやすいと思う。

【会 長】

市の全域でできれば市内の各所でサルビアを見ることができると思う。仕組みづくりができれば持続性も考えた方がよい。また、花を見る会などアイデアもあると思う。

【副会長】

商店街にあるプランター活用とし、2年前に北関東産官学研究会から商店街に寄贈されたプランターも活用してはどうか。

【委 員】

商店街は高齢化し、店舗も減少しているため維持管理の面が課題となる。

育てるタイミングとして、5月末にサルビアの苗を植えるのは良いが、梅雨や暑い中では維持管理に手間がかかる。

【委 員】

サルビアは、プランターより地植えの方が長く保てると思う。日本の気候では1年草になるため、プランターであると毎年植えなければならないが、地植えの場合、本来多年草なので芽が出てくることもある。

地植えができる場所として、まち中より少し離れた場所、川沿いなどで地植えできる場所があるとやりやすいと思う。

サルビアにも種類があるのでミックスしてみても良いと思う。

地植え出来る所をターゲットに、子どもが参加できたり、一斉清掃等で実施できればと思う。

サルビアを見る会を開催してはどうか。小学生のイベントと組み合わせてみると良いと思う。

【会 長】

一斉清掃の時に実施した場合に、地元の方は植えて良い場所を確保できているのか。

【委 員】

町内によっては花壇がある。地域の役員が維持管理している所もある。

【会 長】

公共用地で植えられる所はあるのか。

【事務局】

道路の街路樹の脇であれば土木課、公園であれば公園緑地課が該当する。適正に管理できれば問題はないと考える。

【会 長】

維持管理は定期的に行っているのか。

【事務局】

頻度は少ないが公園や街路樹は維持管理を行っている。

【委員】

わたらせ渓谷鐵道の下新田駅で 2006 年から緑化活動をしている。下新田駅緑化委員会を立ち上げ月 1 回作業をしている。近くに住む会員が毎日管理している。下新田駅から相老駅下り線わ鐵の敷地にて緑化使用申請して小公園化をしている。ハーブを植えている。福田造園さんから吾妻公園のチューリップをもらい植えている。残りは委員会の会費から工面している。

【委員】

小布施のオープンガーデンを以前視察したが、自分の家の庭をオープン化すると意識が高くなると思う。

【会長】

1 つの仕組みだけではなく、複数の仕組みを合わせて実施するのが良いと思う。

【識者】

以前オープンガーデンのフォトコンテストを実施し、みどりと花の会と市で 20 か所を評価したことがある。やる気のある方は競い合って冊子を作っていた。以前、みどりと花の会においても冊子を作っていた。

【会長】

冊子でフォトコンテストの優勝者を掲載したり、植えるだけではなく植えた後のことも考えて楽しみを作ると良いと思う。花の好きな人は結構いると思う。仕組みづくりができればと思う。苗植える予算は種からだといくら位かかるのか。

【識者】

種であればあまり費用がかからない。また、例えば、こどもたちに夏休みに育ててもらおうなどもできると思う。以前、緑化フェアの一環で、高崎市松井田小学校の花づくり体験の授業サポートをした。花農家さんの家に見学へ行き栽培の過程を学習した。種を家に持ち帰り、育てた苗を高崎音楽センターに植えた。花で絵をつくる企画であった。ただし計画づくりに時間がかかり、トータルで 6 ～ 7 カ月かかった。

【会長】

仕組みづくりが大事である。子供関係であると教育委員会との連携が必要である。

【委員】

小中学校では校長の判断で実施判断がなされる。校長会でアプローチし説明するのも良いと思う。協力してくれる学校を募って、やり方としては、指導者を外部の方をお願いする方法が良いと思う。

【識 者】

学校での指導活動は複数の人数で行った。一人でやると活動の輪が広がっていかないため。

【委 員】

学校の予算だけでは難しいので市の予算をつけることができればうまくバックアップできると思う。群大付属の小中学校では部活の一つとして花植えをやっている。

【識 者】

桐生市内の各小学校には緑の少年団がある。

【委 員】

新里では区が課外活動費として学校に収めている。その費用を使って学校の花壇に花苗を植えている。

【委 員】

以前卒業式の時に使う花づくりとして、パンジーを子供たちに播種から維持管理まで経験させ、卒業式に配ることも経験したことがある。

プランターは一時だけ綺麗だがすぐに枯れてしまう。地植えなら河川敷や家庭の庭先へ30～50cmあればきれいに咲かせることができる。

海外（アメリカ・カナダ）では街路樹は伸びても支障のない品種を植えて手入れを簡素化している。桐生も街路樹にかかる維持費用を少なくするために長い年月で考えると手のかからない品種を導入するのも良いと思う。その空いた分を草花に充てることもできると思う。

【識 者】

街路樹などの草刈りは、市の予算の都合もあり、年2回やると赤字になってしまう。ぎりぎり我慢して切っているのが現状である。街路樹は、歩道と車道を分ける意味合いがある。また、道路・歩行者の事情に合わせて維持管理をしている。木が落葉すると周辺住民の清掃の負担が大きくなるため、木には負担がかかってしまうが、落葉する前に切ることもある。

【会 長】

高齢化・過疎化しているが、仕組みづくりと持続性があると実現できると思う。

持続性のあるアイデアを組み合わせることによって実施できることもあることがわかった。ただし、市全域での取組となると難しさがあると感じる。

【委 員】

小学校がテーマとして挙げやすいが、幼稚園・保育園・中学・高校等市内の学校全体での活動としてカリキュラムが組み込めれば人数も増えて良いと思う。春に全学校へ種を配布するなど、広い取組としてできればと思う。

街路樹は、地区によって植樹されている木が違う。また、刈り取る量や高さなど維持管

理の仕方も若干異なると感じる。常緑樹で手間のかからないものがあるのか。

【識 者】

路側帯の大きさが60センチ程度であり、街路樹は無理を強いて栽培している。木が成長すると道路を傷めることもある。常緑樹には様々な種類もあるが交通の面で適さないものもある。交通安全の視点から、子供たちの目線の高さに合うようにするなど配慮も必要となる。維持管理の違いが出るのは高さ調整の兼ね合いもある。

【会 長】

街路樹については、すぐには着手できないと考えられるので、時間をかけて検討していきたい。市内にハナミズキがきれいな通りもあるので、道に付加価値をつける取組など良いと感じる。

【会 長】

各家庭等へ配布し、また植えられた場所がわかると良い。市内で植えた場所を撮影するなど効果が期待できる。商店街での活動はどうか。

【委 員】

商店街の空いている区画に子供が花を植えることで、自分達が植えた花を見に来たり、商店街に人が増えたりと活性化につながると思う。まち中の小学校に協力してもらおうことが考えられる。

【委 員】

昨年市内で生まれた子供は400人しかいない。市の幼稚園も廃園が決まった。移住してくる若い人が増えないと持続可能にならない。

【会 長】

市には空き家リノベーションの補助金もあり、移住者が空き家を利用し、また、オンラインで仕事できる環境でもあることから好循環を目指せば良いと思う。

今日出てきたアイデアの制度設計をするため、意見をまとめた後に問題点を把握する。

また、市の庁内部署でも問題を洗いだし、今年度いっぱい計画を具体化したい。先行的に市の一部地域をモデル地区にするなど方法はあると思う。また、商工会議所と協力できればと思う。

2. 市内の歴史的文化的資源・川や水路などを歩いて楽しむことができるまちづくりについて

【識 者】

織都桐生案内人の会は、まちあるきのボランティアガイドとして45名所属している。社団法人観光物産協会に所属している。

まち歩きのイベントは、チラシ等配って周知をする。定員が少ないためすぐに埋まってしまう。

参加費は保険代として300円程度徴収している。

10月に新宿の水路歩きを行う。厚生病院横から出発する。水車も小さいのは残っているところもある。色々な事に興味ある人にも参加できるものとなる。

ゆっくりズムの企画とし、JR 桐生駅周辺を中心に90分で歩いて回れるように、まち歩きを実施しても良いと思う。市には日本遺産もあり、群馬県内13か所中、桐生は6か所ある。桐生織物記念館や絹撚記念館の2か所で90分コースの設定も良いと思う。

昨年からは、未来創生塾の子供たちと連携し、子供にアンバサダーになってもらい、小学生が小学生を案内する取組を行っている。プランニングをして今年の10月に実施予定となる。

【委 員】

かかあ天下ぐんまの絹物語として、桐生を知ってもらいたいと市長から依頼があり、子どもが案内人となりガイドする取組を日本遺産活用室と共同で実施している。1年目は芳山さんにレクチャーを受け、2年目から自分で調べながらプランニングをし、MAYUを使って10月に本番の予定となる。日本遺産を学ぶこともゆっくりズムと重なっている。

【会 長】

ゆっくりズムのまち桐生を冠にした事業を実施すると効果的であると思う。

市に少しでも予算措置をしていただきたい。

【委 員】

未来創生塾で以前自宅から半径500mで買い物をする取組を実施した。普段は何気なく車を使って通り過ぎてしまうが、休日に親子で歩いて買い物することで新たな発見が生まれ、調べたことをみんなで発表することで地域のつながりも増え、新たな情報の共有にもつながる良い取り組みであった。週末や月1回でもこのような取組ができればと感じる。

【識 者】

川内北小が閉校になる時、児童がグループになり記者となって北小区域を取材し発表した。閉校になることから、自分達の地域の事を知るための目的で実施した。

【委 員】

遠足で桐生の良い所を巡るのも良いと思う。桐生が岡公園等は思い出があるが、水路や古墳など知らない所を見に行くと、子供のうちから桐生は良いまちであると認識できると思う。

【副会長】

学校であると地元の先生だと良いが、先生によっては難しいようである。
コロナ前は子供たちがまち歩き探検をしていた。

【委 員】

コロナ前に西小学校は商店街の探索をしていた。新里小学校も受け入れを行っていた。

【会 長】

商工会議所の取り組みで、桐生で活動されている赤池先生が、ファッションタウンで、桐生が岡公園の女神像前広場をトクトックで案内していた。昔の写真と今の風景を比較する取組も行っており、とても良いと感じた。ゆっくりズムのまち桐生として、歴史や文化を知ること大切である。

【識 者】

市内には観光の拠点があるため、それらをつなぐのがゆっくりズムのまちの取組にあたると思う。

【識 者】

桐生川は自然が豊かでホテルも多い。菱町の泉龍院もとても多く飛んでいる。

【委 員】

梅田ダムができる前は、梅田地域は今よりもっといっぱい飛んでいた。

【識 者】

桐生は地域資源の宝庫である。以前住んでいた東京でビオトープの会をつくり、自然を守る取組をしていた。桐生は自然が豊富にあり、逆に身近にありすぎて貴重さに気づきにくいのだと思う。重伝建等も、桐生は戦時中空襲の被害に遭わなくて済んだので、木造建築物への被害が少なかったから残っている。当たり前だと思っているものが実は価値があるものであると認識して欲しい。

【会 長】

まちの良いものは自分達でも勉強できればと思う。市の職員（若い人）も含めて見て歩く取組も良いと思う。

【委 員】

日が合えば MAYU に乗って日本文化遺産を巡るのも良いと思う。

【会 長】

ゆっくりズムのまちを冠にしているいろんなことできれば良いと思うので、できれば環境課で予算をつけてほしい。

11月27日に未来の環境の集いの開催を予定している。開催に合わせた内容とし、今日議論した事をまとめ、また、次回もう少し内容を精査し発表できるようにしていきたい。

次回は、10月13日（木）18時30分よりワーキンググループを開催する。